

後藤金属工業 株式会社

DX宣言書

2026年8月28日
後藤金属工業 株式会社
代表取締役 後藤 武志

□ 経営理念

私たちは、妥協のないものづくりを追求し、お客さまと地域社会から最も信頼されるパートナーであり続けます
従業員一人ひとりが誇りとやりがいをもって働ける、持続可能な職場を創造します

□ DXビジョン(2～3年後にありたい姿)

技術とノウハウを未来へ繋ぎ、データを活用した継続的な改善により、高品質なものづくりと働きやすい職場の実現を目指します

□ DX戦略・施策

➤ フェーズ1(現在 ～ 2027年3月)

戦略 「業務の可視化と情報共有基盤の構築」

施策

- ・ 属人化を解消するため、全部署の作業工程を整理し、業務フローの可視化と標準化を実施
- ・ 金型・工具管理の効率化のため、保管場所のルールを定め、配置状況の可視化を実施
- ・ 部署間連携を円滑にするため、コミュニケーションツールの運用を見直し、情報共有ルールを整備
- ・ 現場の記録負担を軽減するため、作業時間や工程実績の取得方法を検証し、現場に適した記録・運用ルールを整備

➤ フェーズ2(2027年4月 ～ 2028年3月)

戦略 「技術継承と生産管理基盤の強化」

施策

- ・ 技術継承を進めるため、加工ノウハウや作業上の注意事項・不良対策を蓄積・共有できる仕組みを構築
- ・ 多能工化を進めるため、基礎的・定型的な作業の手順を標準化し、教育資料を整備
- ・ 生産性向上に向けて、標準化した記録方法により作業実績データを収集・蓄積できる仕組みを構築
- ・ スピーディーな採算把握に向けて、工程管理システムの作業時間データを活用し、案件単位の採算を可視化する仕組みを整備

➤ フェーズ3(2028年4月 ～ 2029年3月)

戦略 「データ活用と継続的改善の推進」

施策

- ・ 情報の一元管理を実現するため、導入済みシステム間の連携を検討・展開
- ・ 品質の安定化と生産性向上に向けて、蓄積した加工ノウハウや不良事例を活用した継続的な改善活動を推進

□ DX推進体制

- ・ 代表取締役がDX推進における実務執行統括責任者を務めます
- ・ 従業員全員がDX推進に参加し、社内一丸となった取り組みを実行します

□ DX推進目標

- | | |
|--------------------|---------------------------|
| ・ 人時生産性 | ： 2025年度比 10%向上(～2029年3月) |
| ・ 紙の使用量削減 | ： 2025年度比 20%削減(～2029年3月) |
| ・ 標準化対象業務のマニュアル整備率 | ： 100%(～2029年3月) |
| ・ 現場からの改善提案件数 | ： 年5件以上(2028年4月～) |



第四北越銀行